

提出日： 2026 年 7 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部	准教授	江川 章

研究期間	以下 1～4 より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	1. 日本農業の長期的な変遷にかかる既往研究を整理したうえで、日本農業の構造変化を統計分析によって明らかにした。ここでは農業労働力の動向に焦点を当て、2025 年農林業センサス（確定値）をはじめ、新規就農調査等のデータを用いて分析し、将来の担い手となる農業人材の確保のあり方について検討した。 2. 集落営農組織は米・麦・大豆等の土地利用型農業の担い手として期待され、品目横断的経営安定対策（現在は経営所得安定対策）のもとで 2000 年代後半に各地で急増したが、組織設立後、20 年経過した集落営農組織は世代交代や組織再編に直面している。そこで、全国的にみても広域的な集落営農組織が数多く設立された北部九州における集落営農組織のあり方を検討するため、食農資源経済学会のシンポジウム「北部九州の水田農業構造の変化と担い手形成」を企画・調整し、その座長を務めた。	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	1 の研究成果は下記論文にとりまとめ、2026 年度中に刊行を予定している。 ・江川章「農業労働力の動向と農業人材の確保方策」中央大学企業研究所『企業研究』49 号、2026 年 8 月刊行予定。 ・江川章「現代日本農業の構造変動—農林業センサス分析に基づく農業担い手の変容と課題—」経済理論学会『季刊・経済理論』第 63 第 3 号、2026 年 9 月刊行予定。 2 については下記のシンポジウムを開催し、その内容は 2026 年度中に学会誌に掲載予定である。 ・2025 年度食農資源経済学会大会シンポジウム（2025 年 9 月 6 日開催） 大会テーマ「北部九州の水田農業構造の変化と担い手形成」（座長：江川章） ・江川章「北部九州の水田農業構造の変化と担い手形成」食農資源経済学会『食農資源経済論集』第 77 巻第 1 号、2026 年 9 月刊行予定。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。 日本農業の構造変化については、2025 年農林業センサスの各報告書（総括編、農林業経営体分類編、農業経営部門別編、抽出集計編など）が順次公表されるので、これら統計報告書を用いて詳細な分析を行う。合わせて実態調査を行い、農林業センサスの統計データでは補足できない個人経営体や団体経営体の経営継承や農地集積の動向を解明する。	